

# CO-OP REPORT

Vol. 143



コープさっぽろの移動販売車の様子。天候や気温に応じて、品揃えを変えている（関連記事はP5を参照）。



コープながのは店舗の無料休憩所を使って地域の人びとが気軽に交流できる「お店の縁側」を開催（関連記事はP4を参照）。

P2 **特集**  
**誰もが安心して暮らせる地域社会を目指して**

P5 **生協・地域貢献レポート**  
**くらしを支える移動販売事業（コープさっぽろ）**

P6 **CO・OP国際活動情報**  
**アジアの生協の発展を目指して来日研修を実施**

P7 **事業種別生協のご紹介**  
**医療福祉生協**

P7 **トピックス**  
**ピースアクションで子ども平和会議を開催**

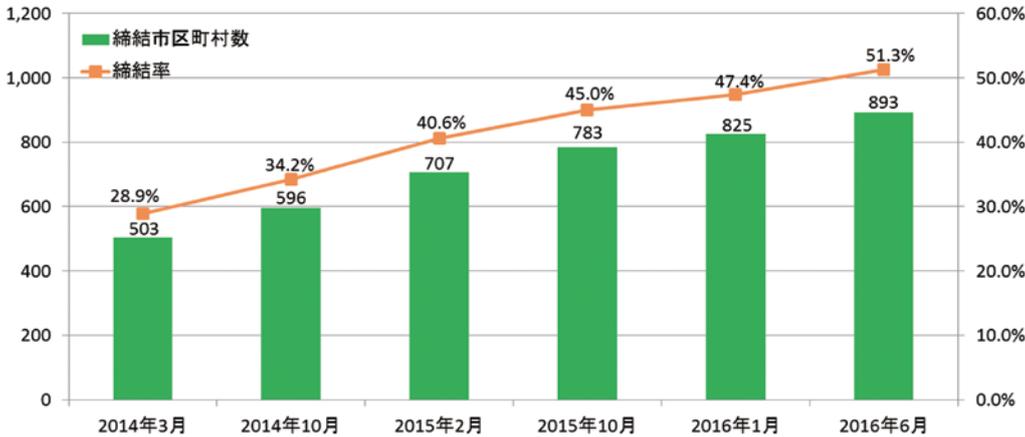
P8 **生協ミニ知識**  
**協同組合原則②**

# 誰もが安心して暮らせる 地域社会を目指して

地域社会づくりへの参加

全国の生協は、地域を支える事業や活動を通して  
誰もが安心して暮らせる地域社会づくりに取り組んでいます。  
助け合いの取り組みを広げ、社会のつながりを再生し、  
地域社会に貢献することを目指して、生協が取り組んでいることをご紹介します。

生協の「地域見守り協定」締結数と締結率の変化



全国で1,000万世帯以上にご登録いただいている生協の宅配や夕食宅配は、基本的に毎週同じ曜日(夕食宅配では週5日)の同じ時間に、同じ配達担当者が地域を回り、商品をお届けしています。各地の生協は一人暮らしの組合員や地域の高齢者と接する機会が多い生協宅配の特長を生かし、各自自治体などの「地域見守り協定」の締結を進めています。「地域見守り協定」は、担当者が配達の際、組合員や地域の高齢者などの異変に気付いた場合は、事前に取り決めた行政窓口などの連絡先に連絡・通報するというものです。

2007年にこうち生協から始まったこの取り組みは、高齢化の進行とともに、全国各地に広がりました。

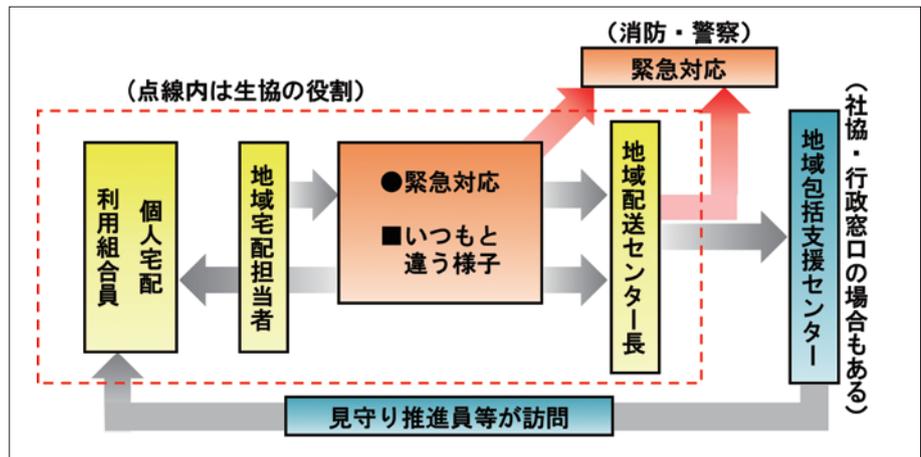
2016年6月現在、全国45都道府県の92生協が自治体・社会福祉協議会などとの間で「地域見守り協定」を締結しています。締結市区町村数は893で、全市区町村(1,741)の51%に当たります。県内全ての市区町村と締結した県は、5県に上りません。

「いつも商品の受け渡しに出でなくて、その日に再訪問した際にも応答がなかったため、自治体に通報した」「宅配のお届けで訪問した際、普段は在宅されている組合員に呼びかけても反応がないため、家の外から中

## 地域の高齢者を支える見守り活動

全国50%超の自治体と地域見守り協定を締結

生協の「見守り活動」による通報・連絡までの流れの例



### さまざまな見守り事例の報告も

協定では、「届けた商品がそのまま残っている」などの異変に気付いた際には、指定さ



「地域見守り活動に関する研修・交流会」の様子。

## 行政と見守り活動の事例を共有しエフコープ

を見たところ、倒れている組合員を発見し、119番通報した」などの事例が報告されています。

また、協定締結が進む中で、通報以外の事例も上がってきています。「認知症で道に迷っている方をデザイナーズまでお送りした」「訪問販売業者の

居座りで困っていた高齢の組合員に寄り添った」などの救護や消費者被害を防いだ事例も数多く報告されています。

生協では、事業を通じた日常の組合員とのコミュニケーションを生かし、行政や地域の諸団体と連携しながら、地域社会に貢献していきます。

### 「地域見守り活動に関する研修・交流会」を開催

地域の見守り活動は、行政やさまざまな団体との連携が必要です。エフコープ（本部・福岡県）は、2016年5月、高齢者福祉を担当する福岡県および各市町村の職員と、エフコープの役員を対象に「地域見守り活動に関する研修・交流会」を開催しました。

見守り活動に取り組んでいる行政の職員とエフコープの役員が事例を共有し、交流することで、今後の活動をさらに発展させていくことが目的で、エフコープにとっては初めての試みです。参加者は総勢100人に上りました。

研修・交流会では、冒頭、福

岡県から見守り活動を行う意義について講演があり、その後、エフコープから見守り活動の事例を発表しました。発表では「異変に気付くためには、高齢者や地域の皆さんの普段のくらしを知ることが必要」「異変を感じたときは、より早急な対応が必要」など日々の対応から得たポイントを紹介しました。

この後のグループ交流は、地域ごとに分かれて行われ、各地域の高齢者のくらしの現状や個人情報管理などの課題について意見を交わしました。会場では「異変を察知したときの行政と生協、それぞれの動きが分かったので、次回からよりスムーズに対応ができそう」という声が上がりました。

### 行政と連携しながら見守り活動の発展を目指す

エフコープは、2013年12



商品をお届けしながら高齢者を見守る。

月に福岡県と「見守りネットワーク」をおか協定」を締結しました。これは、県内の事業者が配達などの日常業務を通して、高齢者などの異変を察知したときに、あらかじめ取り決めをしている連絡先に通報する、という協定です。県内60市町村のうち、55市町村と同様の協定を締結し、5市町村とは見守り活動についての情報交換を行うなどの関係を築き、活動に取り組んでいます。その活動の一環として今回の「地域見守り活動



無料休憩所の飾り付けをする様子。

に関する研修・交流会」を開催する運びとなりました。  
エフコープでは、今後も研修・交流会を実施する予定です。引き続き、行政と連携しながら、安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいきます。

## 地域とつながる店舗でのサロン活動〜コープながの〜

**気軽に立ち寄れる場を地域に提供**

コープながのは、2009年から、地域の人たちが気軽に訪れ、交流できる場として、店舗の無料休憩所を使った「お店の縁側」を開催しています。これは、月に2回、第1、第3火曜日の10時30分〜12時30分に開催しているサロンで、地域の方たちに自由に立ち寄りてもらえる場所を作る取り組みです。訪れた人は、コーヒーやお菓子などでお迎えしています。

活動しています。

**絶えず人が訪れる交流の場として**

「お店の縁側」が開催される日は、縁側サポーターによって無料休憩所の飾りつけが行われます。テーブルに紙で作った花をセットしたり、案内の張り出しなどをする事で、温かみのある空間に変わっていきまます。無料休憩所に立ち寄る人にも縁側サポーターが行います。

「お店の縁側」が開かれている2時間ほどの間、無料休憩

所には、絶えず人が訪れます。家族で店舗に訪れ、お母さんの買い物や父子で待っていたり、友達と偶然会って少しおしゃべりをしたり、知らない人同士が相席となって会話をしたり、とさまざまな過ごし方があります。

縁側サポーターは、訪れた人とさりげなく話をしたり、聞き役になったりして、くつろいでもらえるようにしています。組合員からは「買い物だけでなく、お茶を飲みながらいろいろな人と話ができるのは、生協ならではの取り組み」といった声が上がっています。

コープながのは、店舗と地域、組合員同士のつながりを作る「お店の縁側」を通して、これからも地域社会づくりに貢献していきます。



お菓子の買い出しをする縁側サポーターの皆さん。

コープやんぽろ

# 買い物に困難な地域で くらしを支える移動販売事業



商品を探したり選んだりするのを手伝うこともある。

品などをお届けしています。基本は広場などに停車して販売しますが、高齢者や外出が困難な方のため、利用者宅の前や近くに止めることもあります。

## 組合員の要望に応えながら 全道を駆け巡る

「おまかせ便カケル」の車両は、足腰の弱った高齢者が利用しやすいよう、乗り降りが楽な

低床車で手すりや格納式のステップが設置されています。「お店」なので、新鮮な魚や肉、野菜、惣菜や日用品を店頭にある状態と同じようにお買い上げいただけます。

移動販売車を運転する担当者は、運転だけでなく商品の選定、品出し、レジの操作など、一人で何役も担っていますが、限られた時間の中で、なるべく利用者の皆さんと会話をし、楽しく買い

物をしていただけるよう努めています。また、販売車の積載量には限りがあることから、お店で売れている商品を基本にしながらも、運行するコースの組合員のニーズを踏まえ、事前に伺ったリクエストにお応えするよう商品を選ぶことも、担当者の重要な力量になっています。利用者からは「商品を見ながら買えるので楽しい」などの声をいただいています。

コープさっぽろでは、今後も地域の生活を支えるため、移動販売車による買い物支援に取り組んでいきます。

※1 1回、3回の地域もあります。

## 「買い物弱者」の くらしを支援

全国で高齢化や過疎化などによる「買い物弱者」問題が深刻化しています。各地の生協では店舗を拠点に、冷凍・冷蔵ケースを設置した車に商品を積んで、買い物に不便な地域を回る移動販売車を運行しています。

コープさっぽろの移動販売車「おまかせ便カケル」は、店舗事業の一部門として2010年

から本格的に運行を開始しました。拠点となる店舗から約1,000種類の商品を2トントラックに積み込み、買い物に不便な地域を週2回巡回しています。当初は車両1台でしたが、過疎化が進む地域で買い物に困る方が増え、「私たちの地域にも来てほしい」という組合員の声に応じて台数を増やしてきました。2016年6月時点で78台が稼働し、全道125市町村を回って、生鮮品を始めとする食品や日用



コープさっぽろ本部に掲示されている、おまかせ便カケルの運行エリアと台数を示すパネル（オレンジ部分が運行エリア）。

# アジアの協同組合の発展を目指し 日本の生協で研修を実施



コープネットエコセンターでリサイクル事業について説明を聞く研修生の皆さん。

## アジアの生協マネジャーを 受け入れ、研修を実施

日本生協連は、会員生協とともに、アジアの生協の発展と協同組合同士の交流や協力を目的として、1987年に「アジア生協協力基金」を設立し、人材育成や地域開発の活動な

どに対する助成を  
行っています。日

本生協連は、この  
基金を活用して

1991年からア  
ジアの生協のマネ  
ジャーが日本の生

協の事業や活動に  
ついて学ぶ研修を

年2回行っていま  
す。

2016年7月

25日～8月7日に  
実施された1回目

の研修には、イン  
ドのシーワラナ

生協、韓国のドゥ  
レ生協、ベトナム

のサイゴンコープから5人の生  
協マネジャーが来日して、コープ

ネット事業連合(本部…さいたま  
市)と、みやぎ生協(本部…  
仙台市)で、店舗事業を中心

に日本の生協事業の研修を受け  
ました。参加した研修生の皆さ

んは、所属する生協で、店長や  
店舗運営職などとして活躍さ

れている方々です。

## 日本の生協から学び 各国の実践につなげる

研修生は、はじめに日本生協  
連で日本の生協の活動概要や  
商品政策の講義を受けた後、  
各生協で研修を受けました。

コープネット事業連合では、  
持続可能な社会に向けて生協  
が取り組む環境活動について学  
ぶため、環境配慮型店舗と資  
源リサイクルを行うエコセンタ  
ーを見学しました。

みやぎ生協では、店舗での実  
習のほか、店舗の効率的な運  
営や宅配事業のしくみ、産直  
事業や職員教育の体系などにつ  
いての講義が行われました。ま  
た、東日本大震災学習資料室  
を見学し、震災時のみやぎ生協  
の取り組みや被災地の復興状  
況について学びました。

研修の最終日には、研修で学  
んだことや今後の行動計画につ  
いて発表会を行いました。発表  
の中では「職員のモチベーションを

高める取り組みに興味を持った」  
「陳列の仕方が上手だった。組  
合員にアピールできる効果的な  
売り場作りを研究したい」など  
の発言がありました。

日本生協連は、今後もアジ  
ア各国の協同組合の発展に貢  
献してまいります。



みやぎ生協で店舗研修中の皆さん。

# 医療福祉生協

日本医療福祉生活協同組合連合会（略称：医療福祉生協連）は、医療・福祉事業を行う生協の全国連合会で、2016年3月現在、111の生協が加入しています。組合員数292万人、出資金総額833億円、75病院と337診療所を運営しています。

## ●健康づくりを支援



医療専門職を招いた班会の様子（利根保健生協：群馬県）。

医療福祉生協では、組合員が3人以上集まって、医師・看護師などの医療専門職と一緒に血圧・体脂肪・尿チェックなどの健康チェックを実施したり、病気の予防や健康づくりについて学ぶ「班会」を行っています。2015年度は2万7,000を超える班が45万回の健康チェックを実施しました。また、組合員による健康づくりとして、禁煙や運動などを一定期間実施する「健康チャレンジ」があります。「健康チャレンジ」は数多くの健康づくりコースからいくつかを選び、友人・職場・家族などの

グループでエントリーして、実践を毎日記録し結果を報告する取り組みで、達成賞が用意されるなど、チャレンジが継続するような工夫が凝らされています。2015年度は7万5,000人が健康チャレンジに参加しました。

## ●「すこしお生活」を地域で実践

日本で最も多い生活習慣病は高血圧と言われ、その患者数は4,300万人、予備軍を入れると5,000万人となり、65歳以上では3人に2人が該当するといわれています。高血圧は脳卒中、心臓病、腎臓病など命に係わる疾患を招く恐れもあり、予防が重要です。医療福祉生協では高血圧予防として減塩運動「すこしお生活」を進めています。「すこしお生活」は、「少しの塩分」で「すこやかな生活」を目指す活動の総称で、1日の塩分量6g未満を一人でも多くの組合員が無理なく習慣化していくことを目標にしています。班会など多くの人たちが参加する場で味覚を大切に、楽しみながら実践しています。



市内繁華街の商店街で「まちかどですこしお〜みそ汁味くらべ」を行いました。濃度の違う3種類のみそ汁を用意し、30代〜40代の若いお父さんやお母さん、部活帰りの学生、小学生などに試飲してもらいながら、すこしお生活の大切さを訴えました（高知医療生協）。

## トピックス

### ピースアクションで子ども平和会議を開催

生協は「平和とよりよい生活のため

に」という理念のもと、被爆体験の継承や核兵器のない世界を求める思いを共有する活動「ピースアクション」に取り組んでいます。2016年は、8月4日〜6日に広島で、8月7日〜8日に長崎で「2016ピースアクションinヒロシマ・ナガサキ」を開催しました。8月5日に広島で開催した「2016子ども平和会議」は、子どもたちが平和について考えるきっかけづくりとして企画したもので、全国から121人が参加しました。子どもたちは、グループに分かれて「世界から争いをなくすためには」をテーマに話し合い、平和へのアピール文をまとめ、広島・長崎それぞれで開催した全体の交流会「虹のひろば」で発表しました。



「子ども平和会議」のアピール文の発表の様子。「ともに助け合い手をつなぎ合って、明るい未来を築いていきたい」

「協同組合原則」は、協同組合がその価値を実践に移すための指針であり、1937年の国際協同組合同盟（ICA）パリ大会で初めて採択され、1966年と1995年の改定を経て、現在にいたっています。現在の協同組合原則は、次の7原則です。

- 第一原則 自発的で開かれた組合員制
  - 第二原則 組合員による民主的管理
  - 第三原則 組合員の経済的参加
  - 第四原則 自治と自立
  - 第五原則 教育、訓練および広報
  - 第六原則 協同組合間協同
  - 第七原則 コミュニティへの関与
- 第四原則「自治と自立」と第七原則「コミュニティへの関与」は、環境の変化を踏まえて1995年に新たに付け加えられました。
- 第四原則は、かつて発展途上国や社会主義国では、協同組合は開発のための手段と位置づけられ、政府の規制や保護があったことと関係があります。それでは協同組合は自主的に発展できないため、自立的な協同組合に作り直そうと加わりました。

第七原則は、協同組合は組合員の組織ですが、地域社会が脆弱化する中で、地域の環境、福祉、まちづくりなどにも目を向けることが重要になってきたことが背景にあります。組合員の承認を得た政策を通じて、地域社会の持続可能な発展のために活動する、ということとで採用されました。

また、現在の協同組合原則の特徴は、全ての原則の文言に「組合員」が盛り込まれていることです。特に、第一原則、第二原則、第三原則は、組合員の参加について明確に規定しています。

第七原則 コミュニティへの関与  
東日本大震災の被災地では新たなコミュニティづくりとしてサロン活動に取り組んでいる。



## 日本生活協同組合連合会（略称：日本生協連）組織概要

生協（生活協同組合）は、農協や漁協などと同じ協同組合の一つです。「消費生活協同組合法（略称：生協法）」に基づいて設立され、生活の向上を目指し、さまざまな事業・活動を行っています。生協は、利用者である組合員自身が出資し、意思決定や運営に参画する組織です。

日本生協連は、生協法に基づく生協の全国連合会で、右のような事業と活動を行っています。

代表理事会長 浅田 克己  
 会員数 326会員（2015年度末）  
 供給高 3,757億円（2015年度）  
 全国の組合員数 2,819万人（2015年度末）  
 会員生協の総事業高 約3.4兆円（2015年度）  
 創立 1951年3月20日  
 [URL] <http://jccu.coop/>

### ■主な事業と活動

1. 会員生協への商品供給などに関わる事業
  - ① コープ商品などの開発と供給
  - ② 通販事業
  - ③ 商品事業に関わる品質管理、物流・情報システムなど事業基盤の開発や運用 など
2. 会員生協への支援の取り組み
  - ① 会員生協間の連絡・調整・交流
  - ② 会員生協の宅配・店舗・福祉などの事業や、環境保全・くらしの助け合いなどの組合員活動への支援
  - ③ 会員生協の組織運営・法令順守の支援 など
3. 生協の全国組織としての取り組み
  - ① 生協の全国的な事業・活動方針策定
  - ② 国内・国外の各種協同組合・諸団体・行政などとの連絡・調整
  - ③ 「食」「環境」「福祉」「消費者問題」など生活に関わる社会的テーマについての意見発信や取り組み など